

中途退学の現状	<p>■中途退学者 2名 ■中退率 3.8% (休学者1名含まず)</p> <p>平成28年4月1日時点において、在学者53名(平成28年4月1日入学者を含む)</p> <p>平成29年3月31日時点において、在学者50名(平成29年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>学校生活への不適合・経済的問題</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組</p> <p>担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。</p> <p>担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も行っている。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： (有)・無</p> <p>・片柳学園入学学金免除制度・片柳学園創立70周年記念奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留學生特別給付制度</p> <p>・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生・IT資格特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象・非給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： (有)・無</p> <p>特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日) 受審</p> <p>http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
当該学科のホームページURL	http://www.neec.ac.jp/department/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留學生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園や保育園、関連企業と連携体制を確保して、幼稚園教諭や保育士に求められる人材の養成を目的とした授業科目内容の見直しを図る。そのため、校内の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師によって適宜、指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等を教育機関や保育機関より選定している。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、学校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
榎原直哉	社会福祉法人福愛会 藤井保育園	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	①
宮崎豊彦	社会福祉法人共栄会 城山保育園	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	③
光宗政治	社会福祉法人 打越保育園	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	③
竹内 雅代子	麻生学園 南多摩幼稚園	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	③
中村 健	八王子市幼稚園協会会長 学校法人八王子中村学園	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 学校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
中山 敬二	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 科長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 課長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回（毎年 3月・9月）

（開催日時）

第1回 平成 28年 3月 18日 10：00～12:00

第2回 平成 29年 9月 21日 13：00～15:00

平成30年3月開催予定

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

現状の保育士の中でよく存在する問題として「手書き」の練習が指摘された。保育実習指導ⅠBで実施する保育実習中でも保護者との連絡等にも必須なため、「手書きの向上」を目指してほしいという意見から、実際の授業では「ペン字」練習を行う授業を実施する。現場で欠かせないものとしての手書きの練習を繰り返し行い、改善や上達できるよう指導にあたる。また、現状の保育士の問題点である「幼児を対象とした運動指導スキルの向上」を目指してほしいという意見から、実際の現場での幼児体育指導について実践的な授業を実施する。学生自身も運動をしっかりと実践できるスキルを身につけられるように指導にあたる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園教諭、保育士としての実務に必要な基礎知識を身に付け、実習や実務で即戦力となるために、現場となる幼稚園や保育園、幼児体育関連企業からの助言や指導を直接得られることが可能な企業を選択する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

幼稚園教諭、保育士としての実務に必要な基礎知識を身に付け、実習や実務で即戦力となるために、現場となる幼稚園や保育園、幼児体育関連企業からの助言や指導を直接得られることが可能な企業を選択する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
こども体育1	こどもの運動遊びは、訓練的にならずこどもたちが能動的に取り組み、多くの体験が出来るような環境を設定することが大切である。多くの運動遊びの指導法を習得し、年齢や環境に応じた指導が出来るとともに、こどもの発育発達に則した運動遊びの指導法の習得を目的とする。	日本幼児体育学会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

3月18日(土) 10:00~12:00 研究棟B403

保育界の現状と一介の園長が勝手に求める保育者像

社会福祉法人 誠美福祉会 誠美保育園 園長 折井誠司

②指導力の修得・向上のための研修等

2月25日(土) 10:00~12:00 メディカルフィットネスセンター

幼児の運動指導について、幼稚園教諭と保育士の運動の在り方、身体・栄養について

テクノジムジャパン株式会社 浅野友亮

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

10月30日(月) 15:00~17:00 研究棟B403

保育所保育指針の理解と教育上のポイント

社会福祉法人 誠美福祉会 誠美保育園 園長 折井誠司

②指導力の修得・向上のための研修等

12月予定 メンターとしての教育とは

トレランスアクト株式会社 代表取締役 前原恵子

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性及び透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

社会環境が多様化している中で専門力＝教育力とは限らないので、教員の研修に注力してもらいたいのご意見から、研修体制を整え内容の精査を行う。SNSのマナーに関して、社会的にも問題になっていることから指導強化していく。また、教員の労働環境改善、メンタルケアなどサポート等の充実が必要とのことから、「ヘルスサポートセンター」等の学生および教員のサポート体制の充実を検討している。なお、今年度から教員の変形労働時間制度を導入し労働環境の改善をはかっている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在			
名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	卒業生/I T企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	地域関連
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 企画推進室 室長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
一瀬 康剛	株式会社アトム精密 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック 事務長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	医療 企業等委員
榊原 直哉	八王子市私立保育園協会 (藤井保育園副園長)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ()) 平成29年9月2日

URL : <http://www.neec.ac.jp/announcement/23390/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成28年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/23390/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程 こども学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル1	社会人になるために必要なヒューマンスキルを身につけます。	1・前	30	2	○			○	○			
○			ビジネススキル2	社会人になるために必要なコミュニケーション能力などを身につけます。	1・後	30	2	○			○	○			
○			憲法	日本国憲法の定義について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			情報リテラシーと処理技術	ハードウェア、ソフトウェアの概要、Windowsの基本操作、ワープロソフト、パワーポイントソフト、表計算ソフト等について学びます。	1・前	15	1	○	△		○				○
○			英語コミュニケーション	保育の現場で役立つ英語表現を学び身につけます。	1・前	30	2	○			○				○
○			健康科学	子どもたちの健康について科学の側面から学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
○			こどもと造形1	幼児造形教育の重要性と研究の観点、幼児造形表現の特徴について、造形遊びの手法について学びます。	1・後	30	2	○	△		○	○			○
○			こどもと音楽	子どもの成長過程における音楽の関わり方、必要性について学びます。	1・後	30	2	○	△		○		○		
○			発達心理学	人間を理解するための心理学的な考え方、ものの見方を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			教育原理	教育の目的や本質について学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
○			保育内容総論	五領域の保育内容を統合的に捉え、指導する力を養います。	1・後	15	1	○			○				○
○			教育心理学	教育心理学の基本的な理論について学びます。	1・後	15	1	○			○		○		
○			教育実習事前指導	教育・保育・福祉実習に向けた事前指導を行います。	1・後	35	2	○			○				○
○			保育原理	保育の目的、本質、制度などについて学びます。	1・前	30	2	○			○				○
○			児童家庭福祉論	児童を取り巻く環境について、福祉的な視点での理論を学びます。	1・前	30	2	○			○				○
○			こどもの保健1	五領域の「健康」。子どもの健康・成長について学びます。	1・前	30	2	○	△		○				○
○			社会福祉論	社会福祉・社会福祉援助技術の基礎を学びます。	1・後	30	2	○			○				○
○			家庭支援論	家族・家庭という小集団に着目し、子どもを取り巻く環境への支援方法を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
○			社会的養護	児童福祉と養護について、施設養護について学びます。	1・前	30	2	○			○				○

○		こどもと音楽表現1	保育現場における音楽のあり方、読譜のための基本的な音楽知識、保育現場において活用できる伴奏法や弾き歌いの実践法について学びます。	1・前	35	1		△	○	○		○		
○		こどもと音楽表現2		1・後	35	1		△	○	○		○		
	○	スイミングA	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	30	1			○	○		○		
	○	レクリエーションスポーツ	スポーツ指導の現場でのレクリエーションの考え方とさまざまな場面での運動方法を学びます。	1・前	30	1			○	○		○		
	○	オープンスポーツ実技1	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	45	1			○	○		○		
	○	キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して資格取得を目指します。	1・通	15	0			○	○		○	○	
	○	キャリアアップセミナーB		1・通	30	1			○	○		○	○	
	○	キャリアアップセミナーC		1・通	45	1			○	○		○	○	
	○	キャリアアップセミナーD		1・通	60	2			○	○		○	○	
	○	日本赤十字社救急法A	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	1・通	30	1			○	○		○	○	
	○	キャンプインストラクター実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	1・前	30	1			○			○	○	○
	○	アウトドア実習A	オートキャンプ、カヌー、トレッキング等のアウトドアライフの組立てについて実習を通じて学びます。	1・前	30	1			○			○	○	○
	○	マリン実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	1・前	30	1			○			○	○	○
	○	スノーボード実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1			○			○	○	○
	○	スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1			○			○	○	○
	○	短期海外研修A	海外における幼児教育の現場実習体験を通じて子ども観・最新の保育技術を習得します。	1・前	60	2			○			○	○	○
○		ビジネススキル3	社会人になるために必要なヒューマンスキル及びビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	2・前	30	2	○				○		○	
○		ビジネススキル4		2・後	30	2	○				○		○	
○		乳幼児保育	0～3歳を中心に、遊び・発達・健康について学びます。	2・前	15	1	○				○		○	
○		教職論	教諭として必要な理論を学びます。	2・前	30	2	○				○		○	
○		教育課程論	指導論・指導方法などを学びます。	2・前	30	2	○				○		○	
○		教育方法論	教育の目的に応じて必要な適切な内容、方法の基礎を学びます。	2・前	30	2	○				○		○	
○		教育実習事後指導	教育実習で得た経験について指導を行います。	2・通	60	4	○				○		○	
○		教育相談	子ども一人一人に合わせた支援のためのカウンセリング論を学びます。	2・前	30	2	○				○		○	

○		こどもと言語表現	五領域の「言語」について。子どもの成長に合わせた言語表現について学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○		こどもと造形表現1	五領域の「表現」について。子どもの造形・遊びについて絵画などを用いて学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○		保育・教職実践演習	保育の現場において、実践演習を行い、教職について学びます。	2・前	15	1	○	△		○			○	
○		こどもの食と栄養	子どもの食事と栄養について、保育者に必要な知識を学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○		こどもの保健2	五領域の「健康」。子どもの健康・成長について学びます。	2・前	30	2	○	△		○			○	
○		障害児保育	障害児の保育について必要な知識・技術について学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○		こどもと音楽表現3	保育現場における基本的な音楽知識、保育現場において活用できる伴奏法や弾き歌いの実践法について学びます。	2・前	60	2	○	△		○			○	
○		こどもと体育1	子どもの運動遊びの重要性を講義と実技を通して学びます。	2・前	30	1				○	○			○
○		成果発表	卒業展の企画・準備・運営を実施します。	2・通	60	2				○	○		○	○
○		卒業研究	2年間で学んだ事のなかからテーマを決めて研究し発表する。	2・後	75	5				○	○		○	○
	○	キッズダンス	こども達を対象としたダンスの基礎技術と指導法を学びます。	2・後	30	1				○	○			○
	○	チャイルドスポーツ実技演習	チャイルドスポーツ（ボール運動、マット運動、跳び箱など）の基礎技術と指導法を学びます。	2・後	30	1				○	○			○
	○	絵本読み聞かせ実習	幼稚園・保育園で必須の絵本の読み聞かせの実習及び紙芝居、パネルシアターなどの実習も行います。	2・後	30	1				○	○			○
	○	コーディネーショントレーニング1	運動神経系を活性化させるコーディネーショントレーニングの基本知識や手技を学科として実技を通して学びます。	2・前	30	1				○	○			○
	○	コーディネーショントレーニング2		2・後	30	1				○	○			○
	○	オープンスポーツ実技2	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	2・前	45	1				○	○			○
	○	キャリアアップセミナーE	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して資格取得を目指します。	2・通	15	0				○	○			○
	○	キャリアアップセミナーF		2・通	30	1				○	○			○
	○	キャリアアップセミナーG		2・通	45	1				○	○			○
	○	キャリアアップセミナーH		2・通	60	2				○	○			○
	○	日本赤十字社救急法B	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	2・通	30	1				○	○			○
	○	キャンプインストラクター実習B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	2・前	30	1				○			○	○
	○	アウトドア実習B	オートキャンプ、カヌー、トレッキング等のアウトドアライフの組立てについて実習を通じて学びます。	2・前	30	1				○			○	○
	○	マリン実習B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	2・前	30	1				○			○	○

	○	スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチテストを実施します。	2・後	30	1			○		○	○	○	
	○	スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1			○		○	○	○	
	○	短期海外研修B	海外における幼児教育の現場実習体験を通じて子ども観・最新の保育技術を習得します。	2・前	60	2			○		○	○	○	
	○	課外活動イベント	課外活動イベントに参加して準備・運営について学びます。	2・後	90	3			○	○	○	○		
○		情報リテラシーと処理技術・S	ハードウェア、ソフトウェアの概要、Windowsの基本操作、ワープロソフト、パワーポイントソフト、表計算ソフト等について学びます。	1・前	15	1	○			○			○	
○		スポーツ	運動科学のアプローチ、スポーツ実技における基本練習からゲームへと展開します。	1・前	30	1			○	○		○		
○		こどもと言葉	子どもの言葉の向上を図り、子どもの言葉の先達となる保育者の言葉のあり方について学びます。	1・前	15	1	○			○			○	
	○	相談援助	保護者支援など、保育環境を援助する方法・カウンセリングスキルを学びます。	1・前	15	1	○			○			○	
	○	社会的養護内容	養護原理について、社会背景を含めた福祉的な視点に着目し、子どもが育つ環境について学びます。	1・前	15	1	○			○			○	
○		こどもと音楽表現1・S	保育現場における音楽知識、保育現場において活用できる実践法について学びます。	1・前	10	0	○			○		○		
○		こどもと造形2	幼児造形教育の重要性と研究の観点、幼児造形表現の特徴について、造形遊びの手法について学びます。	1・後	15	1	○			○			○	
○		こどもとリズム表現	子どもの創造表現に適切な援助と指導が行える能力を養成していき、子どものための指導者自身の領域「表現」のあり方について学びます。	1・後	15	1	○			○		○		
○		こどもと人間関係	保育者とこどもの人間関係、保育者の人間関係、現代社会とこどもの人間関係等について学びます。	1・後	15	1	○			○		○		
○		教育心理学・S	教育心理学の基本的な理論について学びます。	1・後	15	1	○			○		○		
○		教育実習事前指導・S	教育実習事前指導は、教育実習事後指導の単位に含まれます。教育・保育・福祉実習に向けた事前指導を行います。	1・後	10	0	○			○			○	
○		こどもと音楽表現2・S	保育現場における音楽知識、保育現場において活用できる実践法について学びます。	1・後	10	0	○			○		○		
○		こどもと環境	子どもを取り巻く保育の環境について学びます。	2・前	15	1	○			○		○		
○		保育・教職実践演習	保育の現場において、実践演習を行い、教職について学びます。	2・前	15	1	○			○		○		
○		こどもと健康	子どもの健康管理について、保育者に必要な知識を学びます。	2・前	15	1	○			○		○		
○		乳幼児保育・S	0～3歳を中心に、遊び・発達・健康について学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○		こどもの食と栄養・S	こどもの食事と栄養について、保育者に必要な知識を学びます。	2・前	15	1	○			○	○		○	
	○	こどもの保健3	五領域の「健康」。子どもの健康・成長について学びます。	2・前	15	1	○			○	○		○	
	○	障害児保育・S	障害児の保育について必要な知識・技術について学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
	○	保育相談支援	気になる子など、発達障害を含め、保護者対応などのカウンセリングや理論を学びます。	2・前	15	1	○			○			○	

○		こどもと音楽表現 3・S	保育現場における音楽知識、保育現場において活用できる実践法について学びます。	2・前	10	0	○			○		○	
○		こどもと体育2	子どもの運動遊びの重要性を講義と実技を通して学びます。	2・前	15	1	○			○			○
○		教育実習	幼稚園の教育方針を理解し、適切な援助、指導を行うための判断、態度、技術、方法について学びます。	2・後	210	7				○		○	○
合計			94 科目	2875 単位時間(131 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1545時間(84単位)取得および選択科目を190時間(7単位)以上取得し、合計1735時間(91単位)以上取得すること	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。